

Art Festival

ゴールデンウィーク恒例、
ジャンルの垣根を超えた気鋭のクリエイター100組によるアートフェスティバル

SICF17

Spiral Independent Creators Festival 17

会期 A日程：2016年5月1日（日）— 2日（月） 11:00 – 19:00

B日程：2016年5月3日（火・祝）— 4日（水・祝） 11:00 – 19:00

会場 スパイラルホール（スパイラル 3F）

ゴールデンウィークは**新しい才能**に会いにいこう。



撮影：市川勝弘

スパイラルは、次代を担うクリエイターの発掘・育成・支援を目的としたアートフェスティバル「SICF17」（第17回スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル）を、今年もゴールデンウィークにスパイラルホール（スパイラル 3F）で開催します。

「SICF」では、公募によって選出された、気鋭の若手クリエイター100組が一堂に会し、絵画、立体・インスタレーション、メディアアート、写真、ファッション、アクセサリーやそれらの垣根を越えた既存のジャンルに捉われない作品を展開します。各ブースでは出展者が常駐し、活発なプレゼンテーションが繰り広げられ、来場者との出会いの場となっています。会期中は来場者の投票によって決定するオーディエンス賞を設けるほか、昨年開催された SICF16 の受賞者による「SICF16 受賞者展」を同時開催、新作を発表します。さらに、本年度より SICF ウェブ（<http://www.sicf.jp>）への事前登録で、学生の入場料が無料となり、より気軽に立ち寄れるイベントとなりました。

ゴールデンウィークに開催するアートイベントとして、この機会にぜひ取材・掲載をご検討くださいますようお願いいたします。

■取材に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

スパイラル／株式会社ワコールアートセンター 広報部 浅野仁美、瀧本恵理
〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23 TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848
E-mail press@spiral.co.jp <http://www.spiral.co.jp>

spiral

未知の才能を発掘、開花させる SICF

「SICF」は、次代を担うクリエイターの宝庫です。未知の才能と出会う開かれた発表の場「SICF」では、これまでアートファンはもちろんのこと、ギャラリストやコレクター、アートディレクター、プレス関係者の方々と、若手クリエイターを結び付け、出展者の活動の幅を広げるきっかけとなってきました。さらに、会期中に行なう審査員の審査により、優秀作品にグランプリ、準グランプリ、各審査員賞を、来場者の投票により、オーディエンス賞を授与します。グランプリ受賞者には、顕彰として、スパイラル 1F のショウケースでの個展開催(制作費 50 万円を補助)とスパイラル広報紙「Spiral Paper」での特集の機会が与えられ、その他の受賞者は、来年度の「SICF」と同時開催する「SICF17 受賞者展」に出展いただきます。



「SICF16」会場の様子



「SICF16」授賞式の様子
撮影：市川勝弘

SICF17 出展者 (2016 年 3 月 7 日現在)

※出展者は変更となる場合があります。

A日程 (2016年5月1日— 2日)

あないまみ／アンドウユウスケ／池原悠太／石川薫／moeishida／植松京子／江頭誠／江藤友理子／大平暁／
岡野貴之／笠谷耕二／カワカミマリ／橋川由里絵／黒田恵枝／近藤真生／Sayuki／末松由華利／杉田彩里／
鈴木萌子／副島舎人／高石優真／田邊結佳／da.Vinci／玉木直子／寺田鵬弘／中嶋明希／中島トキコ／仲野真人／
中村光男／西井保奈美／西嶋望／丹羽由梨香／野内俊輔／橋本美和子／長谷川彩織／花輪奈穂／HANYU／
福重美幸子／FUKUPOLY／Fronts. (酒井菜月 / 高野瑠人)／堀康史／堀としかず／宮原野乃実／MIWAKAKUTA／
武藤正樹／山内沙也果／utrymme／YOUSHITAKU／吉永蛸／鷺見友佑

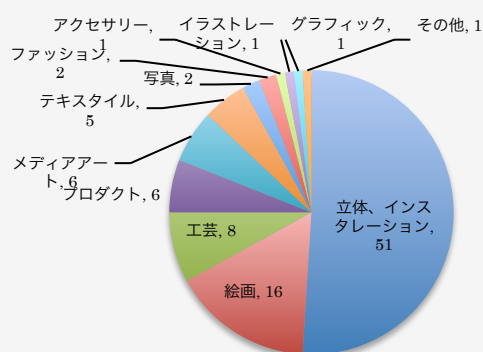
B日程 (2016 年 5 月 3 日— 4 日)

足立篤史／飯塚純 (Jun Iizuka)／磯野泰治／大野詩織／小原典子／折茂由樹／金保洋／
Kalmia(菊田和馬/中根彩花)／岸柚伽／北野藍子／KIKKA WORKS／草本海郎／黒川貴則／小瀬古智之／後藤映則／
小松可奈子／近藤洋子／阪上万里英／坂本千弦／坂本浩気／Summer House／四宮基稀／下村優介／鈴木知佳／
たかぎあきこ／高木あすか／高橋つばさ／つちやあゆみ／豊海健太／永井寿郎／長尾夏葉／西村彩／
ノナカ(新保瑛加/松川栞)／延山菜摘／服部美樹／濱田菜々／福山久恵／藤井陽子／藤生ゆかり／PRISM／細川華子／
松本直也／三井彩紗／峰屋だるま／ムラナカアキコ／モロモトタクマ／YASUKA.M／Yoshiko Fujita／RANYA／
和田由里子

SICF17 出展者データ

近年の SICF 出展者の傾向として、独自の表現を個人で追求し続けているクリエイターを始めとし、芸術系大学・大学院修了者、芸術系教育機関研究（勤務）者、海外での活動経験者が多く参加していることが挙げられます。ほとんどのクリエイターがインディペンデントで制作活動しているため、彼らは効率的に一人でも多くのアートファンと出会うことができる「場」を求め、「SICF」に集います。

■ 出展ジャンル分布（複数回答含む）



応募者総数・・・323 件

（出展倍率約 3.2 倍）

出展者平均年齢・・・27.9 歳

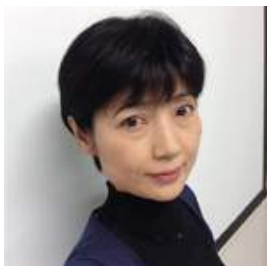
立体、インスタレーション、その他内訳
彫刻、陶芸、切り絵、写真、鏡、
ガラス、映像、テキスタイル、デジタル
コラージュ、木製楽器 他

SICF17 開催概要

名称	SICF17（第 17 回スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル）
会期	A 日程: 2016 年 5 月 1 日（日）－ 2 日（月）11:00－19:00 B 日程: 2016 年 5 月 3 日（火・祝）－ 4 日（水・祝）11:00－19:00 ※両日程ともに 50 組 2 日間ずつ
会場	スパイラルホール（スパイラル 3F） 〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23 東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」駅 B1、B3 出口すぐ
入場料	1 日券 700 円 / 学生無料※SICF ウェブにて要事前登録。
審査員	岡本美津子 東京藝術大学大学院映像研究科教授、 （敬称略） NHK E テレ「2355・0655」プロデューサー 金森香 株式会社シアタープロダクツ取締役・コミュニケーションディレクター、 NPO 法人ドリフターズ・インターナショナル理事 木村恵理子 横浜美術館・主任学芸員 栗栖良依 SLOW LABEL ディレクター 岡田勉 スパイラルチーフキュレーター
主催	株式会社ワコールアートセンター
協力	CLIP、株式会社ステージフォー、東京リスマチック株式会社
企画制作	スパイラル
グラフィックデザイン	FORM::PROCESS
お問い合わせ	03-3498-1171（スパイラル代表）
SICF ウェブ	http://www.sicf.jp ※入場料学生無料登録は 3 月 18 日より開始。

SICF17 審査員コメント

今年度より、審査員を一新。クリエイティビティのさまざまな現場を牽引する審査員が展覧作品を審査します。

**岡本美津子**

東京藝術大学大学院映像研究科教授、NHK E テレ「2355・0655」プロデューサー

ただ、作品があるだけではなく、見る人がいて、それを仲介するメディアがあって初めてコミュニケーションは成立すると思います。プロのクリエイターとして、誰にどのように見せるかという「鑑賞する側の設計」と、どういう場で、どういうしくみで伝えるかという「メディアデザイン」とがきちんとできている作品を期待します。

**金森香**

株式会社シアタープロダクツ取締役・コミュニケーションディレクター、NPO 法人ドリフターズ・インターナショナル理事

おおらかな歌声、迷って紡ぎだした色彩、何度も言いつづける言葉、など作品にもいろいろな表情があります。一生のうちに、仕上げることができる作品の数や、思いをこめられる言葉の数には、誰でも限りがありますが、渾身の言葉＝作品が、展示をとおして社会につながっていくということは、表現者にとっても鑑賞者にとっても、きっと素晴らしい瞬間です。ダジャレでも、シャウトでもいいので、「誰がなにをいおうとわたしは今これを言うぞ」というのを、楽しみにしています！

**木村絵理子**

横浜美術館・主任学芸員

優れたクリエイションとは、それが生まれた瞬間の空気を反映しつつも、時代を超えて受け止められる普遍性を持っているものだと感じています。最先端のクリエイションを30年に渡って紹介し続けてきた歴史ある場所スパイラルで、10年後や20年後の世界を想像させてくれるような作品に出会えることを楽しみにしています。

撮影：427FOTO

**栗栖良依**

SLOW LABEL ディレクター

見ているこちら側の創造力が刺激され、アイデアがどんどん膨らんで、ああ今すぐ一緒に何かやりたい！と思わせてくれるようなクリエイターとの出会いに期待しています。今まで何処でも見たことのないもの、想像したことのないようなことに、「すごい！」とか「なるほど！」とか言いながら一つ一つのブースを巡れたら、もう最高のゴールデンウィークになりそうです。楽しみにしています。

**岡田 勉**

スパイラル チーフキュレーター

SICF は、未だ世に出ていない若手クリエイターがより多くの方の目に触れ、コミュニケーションを取る事ができる機会を創出しようと始まったジャンルの垣根を設けない公募展である。様々な事象がめまぐるしく起こる現代。表現の幅も方法も多様化してきたが、新たな価値観と言う面においては、やや閉塞感を感じざるを得ない。こういう時代だからこそ、既存の枠にとらわれない、時代を切り開くほどのエネルギーに満ちた表現を期待している。

撮影：市川勝弘

【同時開催】SICF16 受賞者展 開催概要

前回の「SICF16」で各賞を受賞したクリエイターが新作を発表します。

会期 2016年5月1日(日) - 4日(水・祝)

会場 エスプラナード(スパイラル M2F) / スパイラルホール ホワイエ(スパイラル 3F)

※スパイラルホール ホワイエの展示は「SICF17」の入場料が必要です。

出展者 神楽岡久美(グランプリ)、上路市剛(準グランプリ)、宮ヶ丁渡(準グランプリ)、
amano yumi(アーホ!賞)、村田実莉(佐藤尊彦賞)、小池奈緒(紫牟田伸子賞)、
瀬川辰馬(三木あき子賞)、FUKILAU(皆川明賞)、後藤宙(スパイラル奨励賞)

SICF16 受賞者情報 <http://www.sicf.jp/archives/sicf16/winners.html>

SICF16 受賞作品ピックアップ**グランプリ 神楽岡久美『光を摘む』**

シリーズ作品『光を摘む』は、小さな鏡による光の粒の集合体に、鑑賞者が点描画のように映し出され、見る者と作品が呼応する様がとても印象的な作品です。作品自体が「アートを生み出す装置になる」という視点や、「光を捉える」という明快なコンセプトと、コンセプトに対する綿密な裏付けの提示が高く評価されました。

**準グランプリ 上路市剛**

日本の生人形の系譜から、西洋の彫刻にアプローチした確かなテクニックと作者の奇異な発想が巧妙に表現されている点が高い評価につながりました。

**準グランプリ 宮ヶ丁渡『温度の標本』**

1つの人型の版から、絵の具の粒子の荒さや表面の凹凸によって、さまざまな表現が生み出されている作品です。日本画の新たな可能性を示したとして、高い評価を得ました。

SICF16 グランプリ受賞後活動報告

▶SICF16 グランプリアーティスト展 神楽岡久美 『光を摘む』

2015年10月2日～8日にショウケース（スパイラル1F）にて神楽岡久美さんの個展が開催されました。会場では、SICF16 でグランプリを受賞した作品『光を摘む』シリーズを引き継ぎ、作品規模を拡大させた、空間インスタレーションが展開されました。『光を摘む』は、小さな鏡による光の粒の集合体に、鑑賞者が点描画のように映し出され、見る者と作品が呼応する様が印象的な作品です。



全て『光を摘む』会場風景
撮影:表恒匡

▶武蔵野美術大学教授 小竹信節氏との特別対談を Spiral Paper に掲載

1990年から91年まで、スパイラルホールの芸術監督を務めた小竹信節氏。小竹氏は神楽岡久美さんの大学院の指導教員でもあり、今回の対談が実現しました。二人の作品制作に対する想いと、現代におけるアーティストのあり方についてご紹介します。対談の様子は、2016年3月末発行予定のSpiral Paper no.140 および、SICF ウェブに掲載します。



小竹信節（左）、神楽岡久美（右）

SICF過去受賞者インタビュー掲載 <http://www.sicf.jp/interview/>

SICFウェブにて、過去受賞者のインタビューを公開中。今年度は、2本のインタビューを新たに掲載しました。1本目は、SICFをきっかけに「スローレーベル」のものづくりに参画することとなった、アーティストokada marikoさんとスローレーベルディレクターで、SICF17の審査員を務めることとなった、栗栖良依さんの対談。2本目は、SICF12で佐藤尊彦賞を受賞後、2014年に福音館書店から絵本を出版し、人気作家となった渡邊千夏さんの単独インタビュー。

▶アーティスト okada mariko × スローレーベルディレクター 栗栖良依

SICF11で南條史生賞を受賞したアーティスト、okada marikoさんとスローレーベルディレクターを務める、栗栖良依さん。SICFをきっかけに出会った二人の活動の軌跡と、SICFに対するそれぞれの想いを語っていただきました。



▶グラフィックデザイナー 渡邊千夏インタビュー

SICF12で佐藤尊彦賞を受賞した、グラフィックデザイナー渡邊千夏さんが2014年に福音館書店から、かがみのえほんシリーズを出版。作家として、制作を続けていくことを考える契機となったSICFについて紹介します。

